

せとうちちょう 議会だより

第143号

平成23年11月発行

発行／鹿児島県瀬戸内町議会 編集／議会報編集委員会 〒894-1592 鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋船津 23 番地



～決算審査特別委員会審査状況（委員会室にて）～



～中学校（加計呂麻島）の統合問題
を審査する
瀬戸内町立中学校の統合に関する
調査特別委員～

こんなことを決めました

第3回定例会は、9月7日～21日までの15日間の日程で開かれ、決算議案11件、補正予算議案10件、条例議案4件、契約議案2件、中学校統合議案1件、人事同意議案2件の計30件の議案を審議しました。

審議結果：可決・認定・同意27件、不同意1件（監査委員の選任）、継続審査2件（加計呂麻島中学校の統合議案関係2件は、瀬戸内町立中学校の統合に関する調査特別委員会を設置し、付託しました。次頁に審査結果掲載。）

平成22年度各会計決算議案については、議長を除く9名で構成する決算審査特別委員会（委員長 向野 忍、副委員長 鎌田愛人）を設置して審査を行い、最終日に委員長から審査報告がなされ、意見書を町当局へ提出しました。（次頁に意見書掲載。なお、各会計決算額状況については町広報誌10月号に掲載のため、割愛しました。）

主な議案の要旨は次のとおりです。

一般会計補正予算 (第4号)

基金積立金に3億2423万2千円

主な内容は、財政調整基金積立金3億550万6千円、公共施設維持管理積立金1500万円、災害対策準備基金積立金305万5千円、ふるさと応援基金積立金67万1千円、合計3億2423万2千円の基金積立金。

また、特別会計への繰出しとして国民健康保険会計に1億円、介護保険会計に43万8千円、巡回診療施設会計に2000万円、簡易水道会計に1542万円、水道事業会計に62万4千円の合計1億3648万2千円の繰出金、総務費に自衛隊拡充及び誘致推進協議会への補助金として145

万8千円、ティゴ駆除委託料201万4千円等を追加するものです。
総額5億8654万4千円を追加しました。

酒造用含みつ糖生産 対策補給基金条例の 制定

加計呂麻島におけるサトウキビ価格の安定を図るため酒造用含みつ糖に対し補給金を交付し、本町の農業振興等の支援に当てるための基金条例の制定です。

道路災害復旧工事 町道嘉徳支線（2工 区）契約

復旧延長1182mで（株）勇建設と7024万5千円で契約しました。

防災行政無線 (デジタル同報系)

整備契約

親局、中継局、再送信子局の設備と屋外拡声子局設備の整備を行なうもので（株）富士通ゼネラル九州情報通信ネットワーク営業部と2億1215万1450円で契約しました。

教育委員会委員に 徳永 允氏



西阿室、薩川小の1～2年生の皆さんが議場を見学しました。

町当局へ決算審査意見を提出

1. 自主財源の確保を図るために、町有地等の未利用地の早期売却、貸付等を積極的に進められるとともに、新たな目的税等の導入に向けて努力されたい。
2. 国・県からの各種雇用経済対策交付金の使途については、将来において雇用創出等が図られる事業に活用し、地場産業の育成に努められたい。
3. 景気対策・地域経済の活性化を図るため、更なる公共事業の導入と企業が新たな産業へシフトできるよう情報提供等に特段の努力をされたい。
4. イノシシ、カラス等の捕獲奨励金を増額し、駆除の徹底を図られたい。
5. 町内のデイゴは危機的状況にある。観光資源保護のためにもデイゴヒメコバチ撲滅の徹底（樹幹注入等による）を図られたい。
6. 我が町の沿岸漁業の衰退ぶりは、近年著しいものがある。漁業従事者の後継者育成、種苗の存続、燃油の直接補助を含めた各種補助事業、支援事業の充実を図られたい。
7. 町民の健康増進とスポーツ振興を図るとともに、競技力向上のため体育施設整備の充実に努められたい。

町立中学校（加計呂麻島）の統合否決

第4回臨時会 地域住民の理解が得られていない

第4回臨時会が10月20日に開催され、第3回定例会で瀬戸内町立中学校の統合に関する調査特別委員会（委員長 岡田弘通、副委員長 鎌田愛人）に付託され、継続審査となっていた、町立中学校（加計呂麻島）の統合関係議案2件を否決しました。

臨時会では、瀬戸内町立中学校の統合に関する調査特別委員長より、特別委員会を9月27日から10月14日までの実質6回開催し、

推進本部長（町長）、副町長、教育委員等からの説明を受けた後、10月14日に採決を行ないましたが、可否同数となり、委員長採決により2議案とも「否決すべきもの」と決定した旨の委員長報告がなされました。

本会議における賛成討論では、「子どもたちの教育環境の充実を図るための統

合であり、子どもたちの立場に立つべきである」、「主役は子どもたち、希望に満ちた新生加計呂麻中学校を」。反対討論では、「地域住民の理解が得られていない」、「学校施設整備計画が明確でない」などの討論があり、採決の結果、賛成5名、反対5名の可否同数となったが、地方自治法第244条の2第2項による特別多数議決（出席者の3分の2以上）の要件に達せず否決となりました。

なお、次の意見を町当局へ提出しました。

瀬戸内町立中学校の調査特別委員会意見

1. 平成24年4月1日に6校を1校に統合することは、現時点においては厳しい状況である。将来を担う児童・生徒の教育のため、今後中学校の規模見直しについては児童・生徒の立場



加計呂麻島中学校統合問題では多くの住民が傍聴に訪れました

に立ち、保護者や地域住民との十分な話し合いを行ない推進されたい。

2. 諸鈍校区へは、今後も粘り強く、あらゆる機会をとらえて、説得、話し合いを進められたい。また、5校区へも理解を得るべく努力されたい。

3. この問題により、加計呂麻島民の感情を混乱させることなく、この機会に島民が一致団結し、教育問題を始め、あらゆる活性化に向けた話し合う場の設定等の方策に鋭意取り組まれたい。

一般質問

第3回定例会では、6名の議員が町政全般に亘り、議論を交わしました。一部を要約して、紹介いたします。

なお、一般質問の詳細については町立図書館にて「会議録」をご覧ください。



林 健二議員

議員 観光振興について

観光振興の観点から養浜事業も必要であると考え、町長の見解を求めます。

町長 現在、ヤドリ浜海岸の中央付近に、ビーチロックが見られるが、砂の流出は無く、海流により東西の海岸に堆積しております。必要であれば整備をして参りたいと考えております。

議員 火葬場整備について

本町の火葬場の現況に町長はどのような見解をお持ちか、今後の方向性もお示し下ろす。

町長 現施設は昭和55年に改築されており、老朽化に伴う補修を行なってきたております。

近い将来には建て替えが必要と考えておりますが、補助金制度がなく、多額の財源を伴う単独事業でありますので、財政的に厳しいものがあります。今後は機器点検と建物の耐久性の調査を行い、それらを参考に総合的な改築計画を検討して参りたいと考えております。

議員 消防防災組織の強化について

瀬戸内消防分署の救急救命士を増やすお考えはないか。

町長 救急救命士の配属は26名中4名であり、人口規模から近隣と比較しても同水準であると認識しております。

議員 港湾施設の整備と今後の長寿命化計画について

瀬武港改修事業の概要とスケジュールについてお尋ね致します。

防波堤	L 50 m
護岸	L 40 m
物揚場	L 50 m
船揚場	L 20 m
道路	L 30 m
港湾施設用地	A 6000㎡

ます。当面は正規職員数の増加を図り、分署の適正人員の確保に努めたいと考えております。

議員 港湾施設の整備と今後の長寿命化計画について

瀬武地区につきましては、平成23年度（新規事業）から平成26年度にかけて、小型船溜まりを整備する予定です。

議員 腎移植手術にかか
る旅費・交通費補助につ
いて

腎移植手術を受ける患者
さんに対する旅費・交通費補
助について、どのような検討
を行ったのかお尋ね致しま
す。

町長 群島内で要綱を策定
している町村を参考にし
ながら、実施に向けて取り

組んでいるところでありま
す。

※その他の質問

一、町長2期目の抱負
一、豪雨災害後の風評被害
について

一、消防操法大会の開催場
所の選定について

一、港湾施設の長寿命化計
画について

一、中学校統合について

と思うが。

②民泊型観光は民宿に対
する行政による民業圧迫に
なるのでは。

まちづくり観光課長

①緊

急雇用創出事業の人材育成
の部分や特定離島ふるさと
興し推進事業による「シマ
案内人」の事業を活用して
ガイドの養成を考えたい。

議員 地域経済の活性化
について
一、「体験型観光や民泊型
観光の推進」について
①山のガイドが足りない

町長 ②民泊を先に計画し、
足りない時に民泊を計画し
ます。

議員 二、「自衛隊誘致・拡
充推進協議会(仮称)」の発足
について、その後の経過は。

町長 「瀬戸内町自衛隊協
力会」、「自衛隊父兄会」、「隊
友会」、「町議会」4団体か
らの代表者による設立準備
会を経て、9月1日に設立
総会を開催し会則、役員、
予算等が承認され発足しま
した。活動予算は今議会の
補正予算に補助金として計
上してあります。

議員 教育の充実につ
いて(古仁屋高校活性化
について)

毎月の町の広報誌に、古
仁屋高校の学校の様子を掲
載することはできないか。

議員 行財政機構の改
革について

町長 すばらしい提案です
ので、検討します。

①役場組織のスリム化に
ついて

②定年退職前の課長の参
事への移行について

町長 ①新規採用者数と各
課、係の事務・業務量を総
合的に勘案し、事務改善審
議会において協議を重ね、
課、係の統廃合によりスリ
ム化を図って参りたい。

総務課長 ②今後、議会在
からの提案があれば、事務改
善審議会の机上に上げたい。

その他の質問
●教育の充実(児童・生徒
のスポーツの推進について、
給食センターの現状と今後
の方向性について)



向野 忍議員

議員 行財政改革につ
いて

一、平成22年度に於ける
「実質赤字比率」、「連結実質
赤字比率」、「実質公債費比
率」、「将来負担比率」、「資金
不足比率」の現状とこれまで
の推移、及び今後の見通しに
ついて伺います。

町長 「実質赤字比率」、「連
結実質赤字比率」は「該当
無し」(黒字)、「実質公債費
比率」は16.2%、「将来負
担比率」は117.6%、「資
金不足比率」は簡易水道事
業が11.3%となっており
ます。「連結実質赤字比率」
は平成20年度には14.2%

は平成20年度には14.2%

まで悪化し、早期健全化団体入りも危惧される危機的状況になりましたが平成22年度には解消されました。

4つの特別会計での累積赤字は約6億円を超え、普通交付税等の減収が確実視されるなかで、「連結実質赤字比率」については、引き続き全会計での実質収支を注視しつつ、改善に努めていくことが不可欠であります。

議員 二、平成22年度一般会計及び特別会計の決算状況と健全化指標との整合性について伺います。

町長 地方財政法に基づく実質収支額と財政健全化法に基づく実質収支額は異なり、本町では健全化法上は赤字が解消されていても、現金収支では赤字となり資金繰り等に苦慮することが

予想されます。

議員 **地域別振興政策について**

本町の地域経済・産業振興政策に於ける、加計呂麻島、請島、与路島の位置付けとその振興策について伺います。

町長 産業振興、特に観光振興にとって、なくてはならない宝の島であると認識しております。今後も特定離島ふるさとおこし推進事業を継続して活用し、3島の振興を図って参ります。

議員 **世界自然遺産登録について**

一、世界自然遺産登録に向けた全体的な進捗状況と本町の取り組みについて伺います。

町長 平成24年度に国立公園指定、平成28年度に世界

自然遺産登録を目指しています。

本町は奄美で初めて景観行政団体になり、「景観セミナーNせとうち」の開催などの研修会を通じて、住民意識の醸成を目指し取り組んでおります。

議員 **希少動植物保護のた**

め、町自然保護条例より一歩踏み込んだ厳しい内容の条例を定めるべきと思うが町長の見解を伺います。

町長 「鹿児島県希少野生動植物の保護に関する条例」を基に展開していきたい。



中村義隆議員

議員 **防災行政について**

奄美豪雨や東日本大震災をどのように受けとめているのか、その教訓をどのように活かしていくのか伺います。

町長 本町においても今後は、地震・津波を想定した避難場所の追加作業を行なう方向で作業を進めており、コミュニティ職員と各集落の自主防災組織との協議により、地震・津波発生時の各集落における最適な避難場所の選定を終え、今年度中に防災マップへの上書き作業を終える予定です。

海抜表示板の設置に関しても、今年度中に町管理港湾・漁港施設の護岸、物揚

場等に海抜表示を明記する予定です。

町内各小中学校及び附属幼稚園においては、毎年、地震に対する避難訓練を実施しておりますが、新たに津波を想定とした避難訓練も実施しております。

議員 **シルバー人材について**

シルバー人材の活用推進について、どのようにお考えでしょうか伺います。

町長 高齢者の皆さんが社会参加することによって、健康増進や医療費抑制にもつながっていくものと思っております。今後の具体的な方策につきましては、元気な高齢者の皆さんが、ボランティア活動や生きがいを持って就業できる場の提供を関係課と協議を重ねながら進めていきたいと考

えております。

議員 教育行政について

て

瀬戸内町子ども版検定実施に向けたその後の状況について伺います。

教育長 先日、9名の委員に委嘱状を交付し、第1回の瀬戸内町子ども検定作成

委員会を開催し、瀬戸内町子ども検定の検討状況、在り方、子ども作成委員会設置要綱等について意見交換を行ない、今後の取り組み、方向性を検討しました。

委員を兼ね、瀬戸内町子ども検定の検討状況、在り方、子ども作成委員会設置要綱等について意見交換を行ない、今後の取り組み、方向性を検討しました。

委員を兼ね、瀬戸内町子ども検定の検討状況、在り方、子ども作成委員会設置要綱等について意見交換を行ない、今後の取り組み、方向性を検討しました。

携わる1人ひとりの創意工夫が試される機会だと思えます。

議員 ②人口について

町長

地元を離れ仕事のため、奄美市などに生活の拠点を移している世帯があるのであれば、むしろ、通勤時間が短縮される開通を期に「都心のベッドタウン」のように、ふるさとに生活の拠点を移す世帯が増えるのではないかと期待しております。

今後は、地元から通勤をする方が増えるような施策についても検討して参りたいと思います。

議員 ③古仁屋高校について

町長

本町への交通の利便がよくなり、大島北部からも本町へ来やすくなり、かつて利用者は増えてくるのではないかと考えております。また、郡内からの集客も期待できるのではと考えております。

町長

名瀬までの間は約10分間短縮されるということのようですが、このことが原因で古仁屋高校への進学率が低下するという認識は持っておりません。古仁屋高校存続問題への影響が出てくるとは考えておりません。



本町活性化の一翼を担う古仁屋高校

議員 ④海の駅について

町長

本町への交通の利便がよくなり、大島北部からも本町へ来やすくなり、かつて利用者は増えてくるのではないかと考えております。また、郡内からの集客も期待できるのではと考えております。



安 和弘議員

議員 町営船乗組員の待機システムについて

古仁屋港に於ける「せとなみ」「カケロマ」の乗組員の待機場所はとうなっているのか、又、待機のシステムはどうなっているのか伺います。

町長

乗務員の待機場所としては、特に設けてはいません。待機システムについては、船舶乗務員休憩時間が重複しない勤務体制として、船舶の係留中の監視及び荷役整理等を行ない、両船とも乗務員の不在が発生しないシステムにしております。



池田啓一議員

議員 今後の町について

て

2014年（平成26年）完成予定の網野子トンネルの開通により、町の次の事についての影響または現象

が起きると認識していますか。また、この事についての対策、政策等も併せてお伺いします。

町長

ストーリー現象の事であると思いますが、地域の魅力をどれだけ活かしているかが、3年後の開通を目標に役場、観光協会、商工会等の各種団体は勿論のこと、事業所そしてそれに

町長

網野子トンネル開通によって、古仁屋と奄美市

議員 **林業の振興について**

広大な面積の山林を活かした振興を図るにはどのようなことが考えられるのか伺います。

町長 本町においては、森林組合等の「森林施業計画書」に基づいて事業を適切に実施することにより健全な整備に努めていきます。

また、地産地消の取り組み拡大や県農林水産物の消費者への理解促進と消費拡大につなげるため、県農林水産物を積極的に活用している飲食店等を「かごしま地産地消推進店」として登録をしていきます。今後もしイタケを主に施設整備を推進し、後継者の育成及び需要の動向を見極めながら、地域振興の活性化に貢献できる品目として推進を図っていきます。

議員 **水産業の振興について**

水産業における一本釣りの沿岸漁業は我が町の漁業の原点とも言えるものです。しかしながら現状は、目を覆うばかりの衰退ぶりであります。この状況の打開策としての様な方策があるのか、伺います。

町長 漁船漁業は、年々、漁獲量・水揚げ高の減少傾向が続いており、大変厳しい状況であります。打開策として、現在、進めている離島漁業再生支援交付金事業を継続実施し、魚食普及

活動や地場産の販売促進、水産物の自給率向上、良好な海域環境の維持など漁民の生活安定に向けて漁協と連携を取りながら推進していきたいと考えております。また、県が推進する「漁業の担い手確保・育成事業」に、9月からカツオ一本釣りの漁船への乗員実習に2名が参加するなど、具体的な取り組みも見られ、これらの方策を支援していききたいと考えております。

議員 **公共事業のあり方について**
現在の業者数の実態はど

うなっているのか伺います。

町長 現在、5工種で35社を格付しており、内訳は、
●一般土木31社(A級6社、B級4社、C級7社、D級14社)
●AS舗装27社(A級6社、B級7社、C級14社)
●管工事21社(A級6社、B級8社、C級7社)
●建築工事18社(A級4社、B級3社、C級5社、D級6社)
●電気工事8社(A級1社、B級7社)となっております。

編集後記

町内各地域の祭りや各学校の秋季大運動会も終わり、やがて冬支度に入る時節である。しかしながら、昔みたいなのはつきりとした時節の移り変わりが無い。

台風シーズンも過ぎて安心して矢先、又も記録的な豪雨に悩まされました。

家屋浸水等で多くの被害が出ております。被災された方々からのお見舞い申し上げ、一日も早い復興をお祈り致します。

昨年から今年にかけて想定外と云われる災害が多発しております。今後も気象災害に充分気を付けましょう。(堯)

議会報編集委員会

委員長	向野 忍
副委員長	鎌田 愛人
委員	堯 文俊
委員	岡田 弘通
委員	林 健二
委員	吉見 洋和

～議会を傍聴しませんか～

次回の定例会は、12月に行われます。どなたでも傍聴できますので、お気軽に議会事務局へお問い合わせ下さい。(72-1072)